「つながり」に気づき、「つながり」を築く

第5回　マザーレイクフォーラム

びわコミ会議2015

実施報告書（詳細版）

◇開催主旨

2011 年に改定された**「マザーレイク 21 計画 第二期」**において、びわ湖流域に関わる多様な主体が計画の進行管理および評価・提言を行う場として**「マザーレイクフォーラム」**が設置・運営されています。

その**「マザーレイクフォーラム運営委員会」**が中心となり、びわ湖やその周辺のさまざまなフィールドで環境保全活動に取り組む県民・市民団体・企業・行政・専門家などが、**立場を超えてお互いの経験や思いを共有し、つながりや交流を深め、びわ湖の将来のために話し合う場**として、また、各々が**一年間の活動を改めて振り返り、びわ湖の現状と照らし合わせながら次の一年間を展望するための場**として、**「びわコミ会議」**を毎年開催しています。

「びわコミ会議」の**“コミ”**には、英語の**「コミュニティ（＝地域）」、「コミュニケーション（＝対話）」、「コミットメント（＝約束）」**の３重の意味が込められています。

５回目となる今年の「びわコミ会議」では、**“びわ湖は、みんなの生き方を映す水鏡～「つながり」をどう広げ、どう活かす？～”**をテーマに、様々な主体が協働・連携して取り組んできた活動の成果に注目しました。

◇開催概要

日　時：　平成 27 年（2015 年）8 月 22 日（土）
＜第 1 部＞10:00～12:00　　＜第 2 部＞13:15～16:30

場　所：　コラボしが 21（滋賀県大津市打出浜 2-1）　3 階

主　催：　マザーレイクフォーラム運営委員会・滋賀県

参加者数：　205 名

参加団体数：　82 団体

ブース出展団体数：26 団体

テーマ：『びわ湖はみんなの生き方を映す水鏡
～「つながり」をどう広げ、どう活かす？～』

◇内容報告

【第一部】みんなつながる報告会　10:00～12:00

■概　要

200 席ある大会議室はほぼ満席になりました。

定刻となり、「第 5 回マザーレイクフォーラム びわコミ会議」が開幕。まず、案内役の**佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）**が登壇。続いて、「ミスターびわ湖」の愛称で親しまれる**川本勇（ユーストン）**がナビゲータとして登場し、以後、この２人の掛け合いで進行していきました。

まず、進行役の 2 人から、「マザーレイクフォーラム びわコミ会議」の主旨説明と、1 日のプログラムの流れについて解説しました。

続いて、開会挨拶、そして番号札を使った会場アンケートによる参加者の属性調査や昨年度のコミットメントの振り返りがあったあと、5 つの団体から、それぞれの活動を発表してもらいました。それぞれの発表に対し、2 人のコメンテータやフロアからも質問や意見が活発に出されました。

■開会挨拶（要約）

〇松沢松治（マザーレイクフォーラム運営委員会委員長）

今回のテーマ**「びわ湖はみんなの生き方を映す水鏡」**は、昨年の「びわコミ会議」から生まれた「びわ湖との約束」の前文です。**私たちの暮らしは、びわ湖の環境と密接につながっています。**そのことを改めて確認する場になれば、と考えています。

マザーレイク 21 計画第二期では、多様な主体が互いに理解・尊重しあいながら協働の取り組みを進めることの重要性が謳われています。そこで今回は、**これまでつながる機会が少なかった「アート」「食」「健康」といった分野の方々にも多数ご参加いただきました。**この場を通じて、つながりを広げ、活かす機会にしていただければ幸いです。

びわ湖で 50 年間漁師をしてきた者として言えることは、今年は魚の動き方や獲れる時期が例年と全く異なっています。また、ここ数年は、琵琶湖の水の色も、場所によっては碧色から白、茶色へと変わってきており、たいへん危惧しています。網を打つとフロートが沈んでしまう程、浮遊ごみも増え続けています。このように、**びわ湖を取り巻く環境は決して良くなっていない**、と日々感じています。

そんなびわ湖のことを大いに語り合い、有意義な 1 日にしてもらいたいと考えています。よろしくお願いします。

○三日月大造（滋賀県知事）

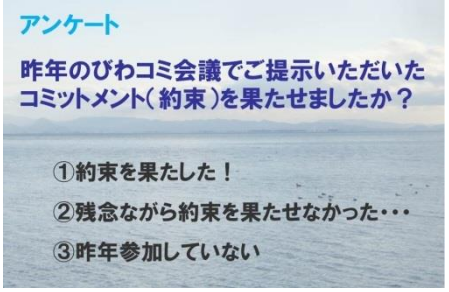
昨年知事になって、昨年もこのびわコミ会議に参加いたしました。その時の「私のコミットメント」は**「365 日びわ湖」**でした。毎日びわ湖のことを考えられるよう、知事室の前に水槽を置いてびわ湖の魚を飼いました。また、ヨシ笛を練習して、びわ湖のヨシで作ったヨシ笛で「琵琶湖周航の歌」を吹けるようになりました。

この１年も、昨年に引き続き、私は**「365 日びわ湖」**をコミットメントに掲げ、今年は特に、**びわ湖の重要な水源である「山」のことを考えた取り組み**を、個人としても、知事としても、頑張っていきたいと考えています。

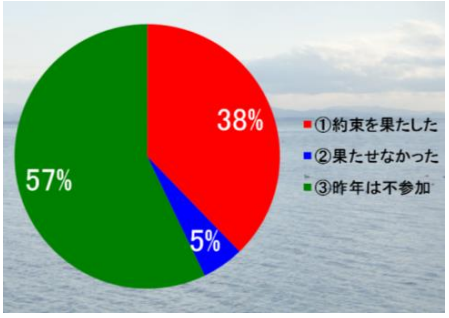
今日は、たくさんの大学生や小中学生の皆さん、NPO の皆さん、企業の皆様方などがお集まりくださり、それぞれの事業の中でびわ湖とのかかわり・つながりをもっと深めよう、広げようと取り組んでくださっています。このことは、**確実に次の世代につながっていく**と思います。

この「びわコミ会議」をさらに充実させながら、**皆さんと一緒にびわ湖のことを発信していきたい**と考えております。一緒に頑張りましょう！

■昨年の「私のコミットメント」振り返り



会場の参加者が、昨年のびわコミ会議で自分が書いた「コミットメント（約束）」を、この１年間で果たすことができたかどうか、全員にあらかじめ配布されていた番号札を使って会場アンケートを行い、その場で集計したところ、昨年度の参加者の９割近くが「約束を果たした」と回答されました（右のグラフ参照）。



回答者への個別インタビューからも、**「子どもたちと一緒に湖魚をたくさん食べた」「川掃除を頑張った」「水草の研究を始めた」「県民への意識づけとなる情報誌を年４回発行した」**など、ひとりひとりが着実かつ熱心に活動に取り組んでこられた様子が伝わってきました。

一方、会場の６割近くの方が「昨年は不参加」ということで、**今年初めて参加してくださった方が非常に多かった**ことも分かりました。

■ ５団体からの活動報告

次に、以下の５つの団体からの「活動報告」を行いました。

また、それぞれの活動報告後に、ナビゲータの川本が報告者に質問をしたり、案内役の佐藤が補足参考資料を提示したり、**三日月大造（滋賀県知事）**と**井手慎司（マザーレイク21 計画学術フォーラム委員）**の２人のコメンテータがコメントをしました。

① 南啓次郎（湖南企業いきもの応援団）
“中小企業連携で進める生物多様性保全の取り組みについて”

湖南地域の中小企業 11 社が集まり、6 年前から草津市内を流れる狼川の上流から下流まで 6 箇所で、年 4 回水質調査・生き物調査を継続しています。

11 社で一緒に活動することで、1 社からは 2～3 人ずつでもそれなりの規模の活動が継続でき、これまでに 6 年間で延べ 500 人弱が参加したことになります。

草津市さんが発表の場づくりをしてくださったり、琵琶湖博物館の学芸員が調査結果の分析をしてくださることも、活動を継続できている大きな要因です。

② 井口嘉久（長浜土木事務所木之本支所）
“オオサンショウウオ等に配慮した砂防工事”

高時川支流の大谷川に砂防堰堤を整備するにあたり、特別天然記念物のオオサンショウウオの生息が確認されたため、新しい砂防堰堤を作るのではなく、既設の堰堤をスリット型に改修することにしました。

これにより、オオサンショウウオをはじめとする生き物が堰堤の上流へも行き来できるようになり、上流部に人工的に谷川の環境を整備したところ、その谷川でオオサンショウウオの生息を確認することができました。

県の生物環境アドバイザーさんが中心になって、地元の皆さんによる「古橋のオオサンショウウオを守る会」が結成され、長浜土木事務所も一緒に参加しながら、土木の立場でできることとして、下流部にあった河川中の段差を解消して生物が行き来しやすくする、といった取り組みを行っています。

（質疑応答・コメント）

・滋賀県レッドデータブックによると、希少野生動物種に指定されるびわ湖の魚類や貝類が増加傾向にあることが推察されます。イサザやニゴロブナなど馴染み深い魚も、要注目種→希少種、絶滅危機増大種→絶滅危惧種と、びわ湖の生きものにとって

厳しい状況が続いているようです。(佐藤)

・過去は企業活動が環境を破壊してきた側面がありましたが、これからは、企業も環境や生きもののことをしっかり学び、**自然環境と共生できるような企業活動を行っていく責任がある**と思います。（南）

・多くの社員さんが継続してびわ湖の保全活動に関わってくださっていることで、**確実に一歩ずつ環境への理解が深まっている**と感じました。**滋賀県には、「人」だけでなく「生きもの」のことも考えて行動している県民が、他府県より多い**ように思います。（三日月）

・土木工事は環境負荷が大きいので、多方面の知恵を拝借したり、住民の皆さんとも連携しながら、少しでも**環境への影響が小さくなるよう工夫し続けていく**ことが重要と考えています。（井口）

・「特別天然記念物のオオサンショウウオが見つかったから、その種を保全するために配慮する」のではなく、どのような現場においても、ありふれた生物種も含めた**「生物多様性」が維持・改善されるような配慮**がなされることが求められます。（井手）

③ 平成 27 年度びわっこ大使たち（びわっこ大使）
“こどもたちの取り組みや環境学習”

びわっこ大使の役割は２つ。ひとつは、**海外や県外の人びとにびわ湖の素晴らしさを伝える**こと。もうひとつは、**海外や県外で学んできたことを滋賀県の人びとに伝える**こと。

2014 年度は、沖島・西の湖・湖北野鳥センター・琵琶湖博物館などを訪問し、びわ湖の魅力について学びました。滋賀と宮城で開催された**「ＫＯＤＯＭＯラムサール交流会」**にも参加して、びわ湖のすばらしさを伝えたり、蕪栗沼とびわ湖の違いを学びました。

2015 年度は、びわ湖の湖魚文化を学びに尾上漁港・水産試験場・家棟川観光船などを訪問しました。11 月には**タイのチェンマイ**に行ってびわ湖の魅力を世界に発信します。

私たちから会場の皆さんへのメッセージは、**「びわ湖の宝をたくさん見つけよう！そして、びわ湖の大切さをもっと伝えよう！」**です。

④ 佐々木和之（環境フォーラム湖東）
“環境フォーラム湖東の活動紹介”

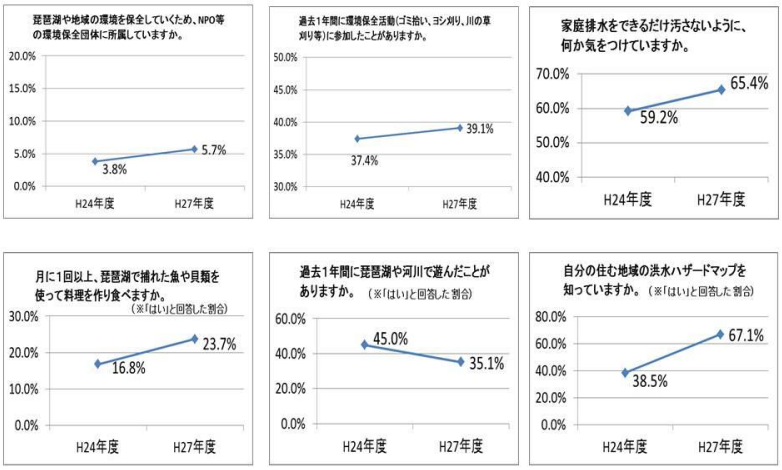
環境フォーラム湖東は、第１期マザーレイク計画に基づく**「湖東地域エコトピア推進計画」**を実現させるために設立された団体で、**「環境教育」「ゼロ・エミッション」「水環境」**の３つ部会からなり、湖東地域の企業・市民団体・学生等で構成されています。

現在も継続している主な活動は、**生き物調査・水質調査・エコサロン・機関紙発行**。生き物調査では、毎年調査対象とする生き物を決めていて、去年・今年はトンボを調査しています。多くの市民に気軽に参加してもらえるよう、**トンボを見つけたらケータイと QR コードを使って気軽に写真と位置情報を送れる**しくみや、よい取り組みを表彰する制度などを設けています。専門の講師を招いての**観察会**も実施しています。**生き物の分布は、その地域の環境を映す鏡**なので、こうした生き物の分布を調べることで、私たちの身近な暮らしの問題を知り、見直すことができます。

こうした**活動を継続できているのは、県の湖東環境事務所さんの強力なバックアップがある**おかげです。

（質疑応答・コメント）

琵琶湖の総合保全に関する県政モニターアンケート結果



・県政モニターアンケート結果（右図）によると、**県民がびわ湖保全に関わる機会や関心度は、全体的に高まっている**ように見えます。特に、**流域治水条例**が策定されたことが契機となり、洪水ハザードマップの認知度が顕著に高まったようです。（佐藤）

・このグラフを見てもそうですが、**びわ湖や川で遊ぶ人が減っている**と感じます。滋賀県民には、**もっとびわ湖で遊んで欲しい**ですよね。（川本）

・びわっこ大使の活動の楽しさを友だちに伝えることで、**びわ湖の環境に関心をもってくれる仲間を増やしたい**です。（びわっこ大使）

・活動の裾野を広げるためには、**より多くの市民が気軽に、簡単に参加できるきっかけづくりをもっと真剣に考えない**といけない、と感じています。そんな思いで、QR コードでの参加型生き物調査や、公民館ではなくビバシティでのパネル展などもやっています。（佐々木）

・環境フォーラム湖東さんは、マザーレイク計画に基づいて設置された各地域の流域協議会の多くが活動を継続できていない中、湖南地域と並んで**最も積極的に活動を継続**してくださっています。そして、びわっこ大使たちが最後に言っていた**「びわ湖の宝を見つけよう！」**という問いかけが、去年の KODOMO ラムサール交流会で全国から集まった子どもたちになされたのですが、その結果一番多かった答えが、まさに環境フォーラム湖東さんのように**「びわ湖のためにがんばっている人がたくさんいること」**でした。（井手）

・２つの発表に共通していたのは、環境活動をあまり堅苦しく考えるのではなく、**遊び心をもった取り組みや、食べ物を通じた取り組みなど、日常の身近なところからびわ湖のことを考える**、という点がすごくいいな、と感じました。（三日月）

・びわ湖の環境をよくするためには、**一人ひとりが、それぞれの地域で、山・川・木・土・生き物など、身近で小さな環境の変化に日頃から関心をもって観察していくこと**が、これからますます大切になってくると思います。（三日月）

⑤ 檜垣知里、蒲生楓、松廣美咲（成安造形大学）
“びわっこパネル制作プロジェクト”

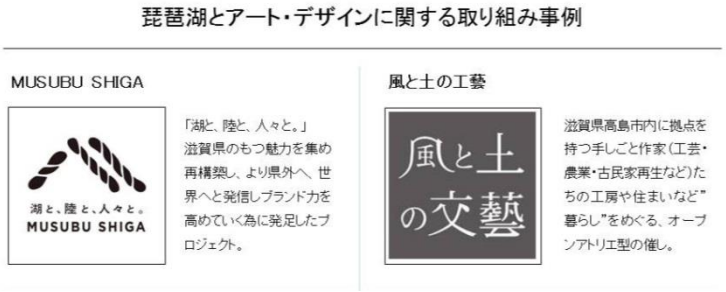
成安造形大学では、県からの依頼で毎年「びわ湖の日」のポスターを制作していますが、今回は、「**県民の意見を集められるもの**を作ってもらえないか」という県からの依頼を受けたことから、学生有志６人でこれに取り組み、**「びわっこパネル」**を制作しました。

びわっこパネルをイベント会場に設置しておくと、見つけた人が**集まってきます**。そこに付箋紙を置いておき、参加者は**意見や思いを書いた付箋を好きな場所に貼る**ことで、思いが直接**県にも伝わる**し、あとから**訪れた人たちともシェアされます**。

パネルには、びわ湖だけでなく街や山、鉄道、近隣府県まで描かれていて、**より多様な意見を集めやすく**なっています。**文字は北上ではなくびわ湖を基準に回転して書かれている**ので、パネルを水平に置いて**「びわっこテーブル」**として利用することもできます。

（質疑応答・コメント）

・**アートやデザインを活用してびわ湖の魅力を表現したり発信したりする取り組み**が、最近非常に増えています。そ



の一例として、右図に挙げたような取り組みが挙げられます。（佐藤）

・私の知事室にもピンホールカメラでびわ湖を撮影した写真を飾らせていただいていますが、**びわ湖の魅力を「デザイン」の力でオシャレに描き直して発信**してもらうことで、滋賀県のイメージアップにもつながれば、と思います。まだまだいろんな取り組みができる可能性がある分野だと思います。（三日月）

・今回、**西安造形大**から初めてびわコミ会議に参加していただきましたが、ほかにも、**滋賀県立大学**から 15 名がスタッフとして参加してくれていますし、**国際ボランティア学生協会**からも参加してくださっています。このように、びわ湖をキーワードに、**大学の垣根を越えて学生たちがどんどん参加し、つながっていってくれれば**と思います。（井手）

○ 三日月知事　退場あいさつ

皆さんの活動が実って、国会で、**びわ湖を守るための法律**を制定する動きがいよいよ進んでいて、衆議院の環境委員会から調査・視察が明後日来られます。びわコミ会議のことも含めて、びわ湖での皆さんの取り組みをしっかりお伝えします。

もうひとつ。先ほど「私のコミットメント」でも約束しました通り、今年はびわ湖のことを考えるために**山のことに取り組む**目標を立てていますので、2 月は木之本へ行きましたが、明日から、安曇川上流の高島市中野から自転車と JR で県庁に通います。

一緒にがんばりましょう！ありがとうございました。

■ びわ湖なう

次に、「びわ湖なう」と題して、参加者に配布された「琵琶湖と暮らし 2015 レポート」をもとに、この１年間に琵琶湖で生じた事象等について報告しました。

○小松直樹（滋賀県琵琶湖政策課長）

昨年までは、びわ湖の現状の全体像を把握していただくのがなかなか難しかったのですが、今年は**「琵琶湖と暮らし 2015」**という冊子を作らせていただいたので、この１年間にびわ湖で生じた事象等について、これを見れば全体の状況が分かる、というようになりました。

まず、びわ湖の環境を大きく**「湖内」「湖辺域」「集水域」**の３つに分類し、さらに全部で**12 の指標（カテゴリ）**を作成して、各カテゴリごとに、**「State」（現在の状況）**と、**「Trend」（今後の傾向）**を分かりやすくまとめたものが右図になります。これを見ると、例えばびわ湖の水質であれば、状態は「悪くはない」、傾向は「改善している」ということが分かります。

表　琵琶湖と暮らしに関わる「鍵となる指標」の評価結果

分類	指標（カテゴリー）	State －状態－				Trend －傾向－			
		よい	悪くはない	悪い	評価できない	改善している	変わらない	悪化している	評価できない
湖内	琵琶湖の水質		▤			➡			
	琵琶湖の植物プランクトン		▤						◆
	琵琶湖漁業の漁獲量（魚類等）			▦				⬅	
	琵琶湖の底質				▩		▬	⬅	
湖辺域	琵琶湖の水草（主に沈水植物）			▦	▩			⬅	◆
	琵琶湖のヨシ		▤			➡			
	琵琶湖漁業の漁獲量（貝類）			▦				⬅	
	希少野生生物種			▦				⬅	
集水域・暮らし	河川の水質		▤			➡			
	一次産業（就業者数・生産額）			▦				⬅	
	環境と調和した農業		▤			➡			
	森林の管理状況		▤			➡			

※各指標の詳細解説は省略。詳しくは、**「琵琶湖と暮らし 2015」** *（p. 20 にダウンロード URL を記載しています）*を参照。

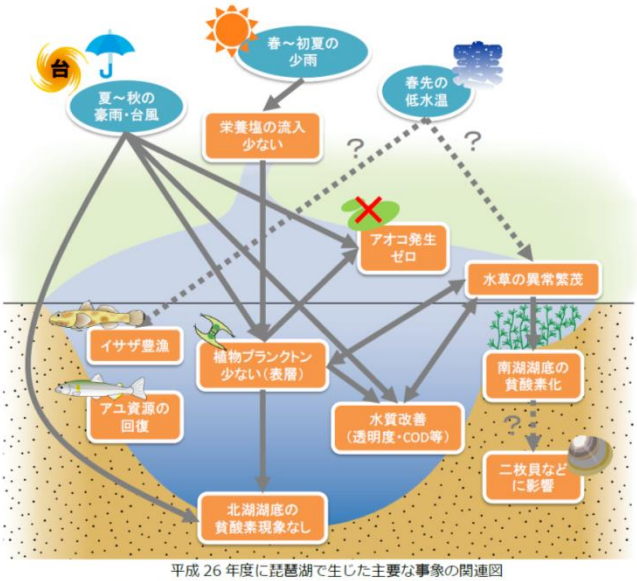
このように、**びわ湖の現状・状況を、具体的な取り組みや数値を用いて客観的に取りまとめる**ことを、今年度だけでなく、**次年度以降も継続してやっていく**ことによって、**経年的な傾向**がより鮮明にわかってくるようになると思われます。また、**こうした情報を行政の施策に反映させたり、皆さんの活動に活かしていっていただきたい**と考えています。

（コメント）

○井手慎司（マザーレイク 21 計画学術フォーラム委員）

今回県が作成した**「琵琶湖と暮らし 2015 レポート」**は、非常に画期的です。

どこが画期的かというと、象徴的なのは右の図です。単に測定した数値やグラフを並べるだけでなく、**それぞれの数字や現象の間にあるであろう複雑な「関係性」**にまで踏み込んで、間違っているかもしれないけれども、**現時点で考えられる限りの「おそらくこうではないか」という情報**が盛り込まれています。



平成 26 年度に琵琶湖で生じた主要な事象の関連図
（魚たちのにぎわいを協働で復活させるプロジェクトの成果より）

今まで、行政はこういう不確かな情報は公開・発信しないのが常でしたが、**びわ湖の課題を具体的に改善していくため、今回のレポートは非常に重要な第一歩**だと思います。

■ 寄付金受領式

午前中の最後は、今年３月にマザーレイクフォーラム運営委員会へご寄付をいただいた**「びわ湖チャリティー100km 歩行大会実行委員会」**様をお招きして、**北野裕子前年度実行委員長**から、**マザーレイクフォーラム運営委員会委員長の松沢松治**に対して、寄付金の目録が手渡されました。

○松沢松治（マザーレイクフォーラム運営委員会委員長）

今回、マザーレイクフォーラム運営委員会として初めて寄付金を賜ることができ、たいへんうれしく思っています。**びわ湖のために有効に活用させていただきます。**また、できれば今年度だけでなく、今後とも引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○北野裕子（びわ湖チャリティー100km 歩行大会　前年度実行委員長）

「びわ湖 100km チャリティ歩行大会」は、昨年初めて開催し、今年２年めで、10 月に開催します。長浜の豊公園を出発して、夜通し歩いて南郷まで南下し、おごと温泉がゴールです。自分自身の殻を破るチャレンジの機会や、目標達成に向けた会社や団体の結束を強める機会にもなるイベントです。チャリティ事業として出場者やサポーターから参加費を集めて、その一部を、**「びわ湖の環境保全に役立てていただきたい」という思いで、今回寄付させていただきました。**

■ NHK びわこキッズ からの質問

Q. 私たちは、NHK の**「クイズで知るびわ湖」**という番組に出演している**「びわこキッズ」**です。私たちもびわ湖が大好きで、びわ湖を守っていきたいと思っているのですが、**20 年後のびわ湖って、どのようになっているのが理想なのでしょうか？** 教えてください！

A. 20 年後のびわ湖は、私が漁師を始めた 50 年前にできるだけ近い環境になっているといいな、と思います。具体的に言うと、**船の上から、魚が泳いでいる姿や、びわ湖の底をシジミが歩いた跡がはっきり見える**ぐらい、びわ湖の水がきれいになっている、ということです。（松沢）

Q. 20 年後のびわ湖をそのようにするために、**私たちは何をすればいいでしょうか？**

A. 滋賀県に住んでいる人はもちろん、近隣の府県の人も、ひとりひとりが、**生活や仕事のあらゆる場面で、常にびわ湖のことを考えて行動してほしい**と思います。（松沢）

【昼休み(ブース展示)】 12:00～13:15

26 団体からブース出展があり、参加者は昼休みの時間を利用して各ブースを見て回りながら、思い思いに出展者との交流を深めたり、情報交換を行っていました。

ブース番号	団体名	ブース内容
1	小佐治保全部会/総合地球環境学研究所・栄養循環プロジェクト	小佐治のいきもの育む水田
2	大原財産区/総合地球環境学研究所・栄養循環プロジェクト	湖育む大原財産区の森
3	滋賀県琵琶湖政策課/総合地球環境学研究所	堆肥に生まれ変わった水草
4	つながり再生構築事業/総合地球環境学研究所	内湖(平湖、柳平湖)の再生をめざして
5	滋賀県農村振興課地域資源活用推進室/総合地球環境学研究所	魚のゆりかご水田プロジェクト
6	国際ボランティア学生協会	学生目線から見た「オオバナミズキンバイ除去活動」
7	認定 NPO 法人びわこ豊穣の郷	オオバナミズキンバイ除去大作戦
8	環境フォーラム湖東	環境フォーラム湖東　活動紹介
9	琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会	琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会の取組
10	琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議	琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議の取組
11	NPO 法人家棟川流域観光船	家棟川流域を中心とした水環境保全活動を行なっています！
12	びわ湖の水と地域の環境を守る会	びわ湖をもっと身近に感じよう！
13	碧いびわ湖	雨水、お日さま、森の木々。身近な自然とつながる住まいづくり
14	(一社)滋賀グリーン購入ネットワーク	ひろげようグリーン購入！
15	NPO 法人 蒲生野考現倶楽部	日野川探検の取組み
16	環境ボランティア草津湖岸コハクチョウを愛する会	草津湖岸のコハクチョウと環境
17	特定非営利活動法人おおつ環境フォーラム	NPO 法人おおつ環境フォーラム　活動紹介
18	NPO 法人関西ナショナル・トラスト協会	淀川と安曇川：生水の郷交流会
19	公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構	飲める　水遊べる　水辺次世代に
20	琵琶湖・淀川流域圏連携交流会	活動紹介
21	アジアの浅瀬と干潟を守る会	健康を取り戻せ三河湾　100 年続ける山川里海健康診断　豊川流域編
22	愛知県水地盤環境課	三河湾環境再生パートナーシップ・クラブについて
23	マザーレイクの会事務局	映画「マザーレイク」来夏公開！
24	チーム一滴	びわ湖森づくり Now(AM のみ)
25	エコと和の安全安心クラブ	恵湖時代(琵琶湖のヨシから食器に)(AM のみ)
26	川村工務店	木造軸組建築体験キット「くむんだー」

マザーレイクの会
事務局
映画「マザーレイク」
来夏公開！
愛知県水地盤環境課
三河湾環境再生パートナーシップ・クラブについて
Mother Lake

琵琶湖・淀川流域圏連携
交流会
歴史・文化を活かし自然と共生する
琵琶湖・淀川流域圏を再生しましょう。

碧いびわ湖
雨水、お日さま、森の木々。
身近な自然とつながる住まいづくり
"ほんとうの豊かさ"を
あなたの暮らしに
自然とつながる住まいづくり
雨水からはじめよう！

琵琶湖・淀川流域ネット
ワーク推進会議
琵琶湖・淀川流域圏再生
推進協議会

堆肥に生まれ変わった水草
栄養循環プロジェクト

いきもの育む水田
下流を支える入会の森

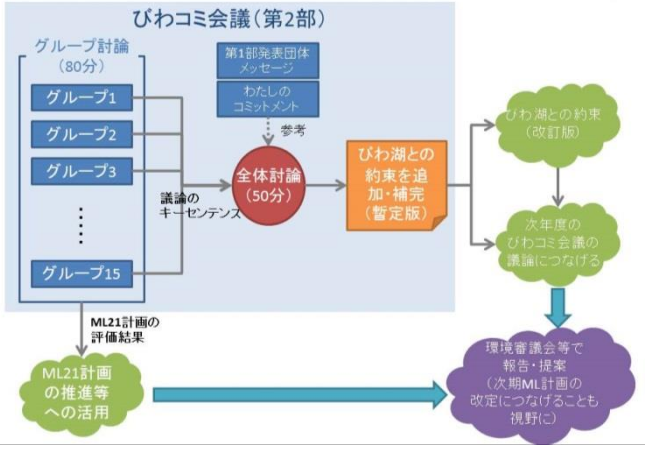
内湖再生をめざして
魚のゆりかご水田

琵琶湖の侵略生物
オオバナミズキンバイ七変化
～ 様々な形で生育しています ～

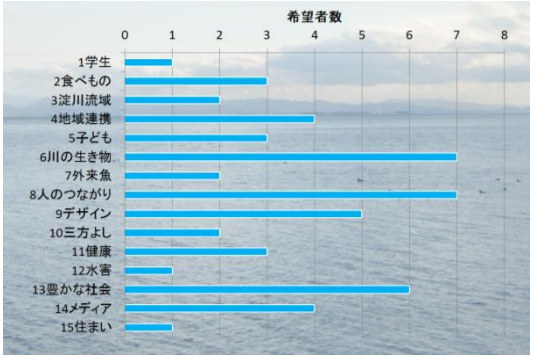
【第二部】びわ湖のこれから話さへん？　13:15～16:30

■ 概　要

午後からも、第一部に引き続き、大会議室にて、佐藤・川本の進行でスタートしました。まず、**「話し合い」**の進め方や留意点等について、司会が説明をしました（右図）。



続いて、全部で 15 ある**「グループ」**の各担当者（次頁参照）が登壇し、ひとりずつ、各自が担当するグループの話し合いの**テーマ**（「びわ湖と○○」）や論点について発表しました。そして、それを聞いた参加者に、どのグループに参加したいか決めてもらって、旗挙げによるグループ分けを行いました（右下図）。人数調整の結果、No. 10（三方よし）と No. 15（住まい）のグループは合同で話し合いをすることになりました。



そして、各グループごとに別々のテーブルに別れて、**80 分間**、それぞれのテーマについて話し合い・議論をしました。

最後に、それぞれのグループで話し合った内容と**「キーセンテンス」**を、参加者全員でシェアしました。

■ 交流ワークショップ（話し合い）

○ 各グループの 担当者名（所属） と 話し合いのテーマ：

〔1〕谷清隆（NPO 法人 国際ボランティア学生協会）
「びわ湖と学生」…学生とともに考える ～びわ湖の新たな脅威と未来～

〔2〕南重治（滋賀県農政水産部食のブランド推進課）
「びわ湖と食べもの」…食べることで、びわ湖を守る ～環境こだわり農産物～

〔3〕野田晃弘（NPO 法人蒲生野考現倶楽部）
「びわ湖淀川流域と市民のつながり」…つながるための方法を考えよう ～市民レベルでどうつながるか～

〔4〕村上悟（NPO 法人碧いびわ湖）
「びわ湖をめぐる地域での連携」…団体・企業・行政でつながりあって、それぞれの課題をプラスに転換！

〔5〕尾上怜（滋賀県自然環境保全課）・びわっこ大使と OBOG たち
「びわ湖と子ども」…若い私たちの環境への思い

〔6〕井口嘉久（滋賀県長浜土木事務所木之本支所）
「びわ湖と川の生き物」…生き物に配慮した川づくり ～行政と地域社会、NPO 等との連携～

〔7〕木野剛志（滋賀県立大学環境科学部）
「びわ湖と外来魚」…外来魚を減らす取り組みの進捗点検とアイデア出し

〔8〕奥田昇（総合地球環境学研究所）
「びわ湖と人のつながり」…語り合おう！ 野洲川流域の人と自然のつながり

〔9〕檜垣知里・蒲生楓・松廣美咲（成安造形大学）
「びわ湖とデザイン」…「びわっこパネル」の可能性

〔10〕辻博子（一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク事務局） （→後に No. 15 と統合）
「びわ湖三方よし」…企業よし、生きものよし、地域よし～「びわ湖三方よし」に向けて何ができるか?

〔11〕北野裕子（㈱エフアイ、びわ湖チャリティー100km 歩行大会前実行委員長）
「びわ湖と健康」…体験で得られる５つの K ～健康・環境・観光・啓発・感動～

〔12〕山田千尋（滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室）
「びわ湖流域と水害」…どうやって水害から命や財産を守る？

〔13〕金再奎（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）
「びわ湖と豊かな社会」…人口減少を見据えた豊かな滋賀づくりについて

〔14〕辻村琴美（新江州㈱ 循環型社会システム研究所）
「びわ湖とメディア」…情報発信でつながるびわ湖と市民

〔15〕川村克己（川村工務店） （→後に No. 10 と統合）
「びわ湖と住まい」…びわ湖の森をくらしの中へ

それぞれが個性的でバラエティ豊かな各グループ内で、グループ担当者によるファシリテーションのもと、参加者同士がそれぞれのテーマについて 80 分間にわたって議論を深めました。なお、各テーブルの記録係は、主に滋賀県立大の学生たちが担当してくれました。

話し合いの最後に、各グループで話し合われた内容をもとに、グループごとの**「キーセンテンス」**が決められました。

■ 私のコミットメント

グループでの話し合いを終え、メイン会場に戻ってきたところで、これから 1 年間、自分がびわ湖のために何をするかを宣言する**「私のコミットメント（＝約束）」**を、参加者全員にフリップに記載してもらい、みんなで一斉に掲揚しました。

今年の「私のコミットメント」の一例紹介（その場で個別インタビューされたもの）：**「びわ湖の大切さをみんなに伝える」、「無農薬ニンニクの栽培を成功させる」、「湖岸ウォーキングなどのスポーツを通じて健康長寿社会を実現させる」、「映画『マザーレイク』（来夏公開）でびわ湖を全国に発信!!」、「大阪の高校生と滋賀の高校生を交流させる」**…ほか、全部で 93 のコミットメントが集まりました。

■第二部まとめ（各グループからの発表）

全 14 グループの代表者が登壇して、グループ内での話し合いの様子と、各グループでとりまとめた**「キーセンテンス」**を順番に発表しました。また、フロアからも、話し合いに参加した感想や補足のコメントなどを伺いました。

○ キーセンテンス と内容報告：

〔1〕「びわ湖と学生」…学校・地域・社会・企業をつなぎ新しい発想をもたらす学生

背景の違う多様な学生が、組織に縛られない自由な立場を活かして、びわ湖の保全に関わる企業・NPO・行政などに対して新しい発想の提案をしたり、組織間のつなぎ役を担っていきたいです。

〔2〕「びわ湖と食べもの」…環境こだわり農産物を選ぼう!!食べる事でびわ湖を守ろう!!

農家と消費者、子どもから年配の方まで多様なメンバーで議論ができました。農薬・化学肥料・濁水流出を抑えて栽培された「環境こだわり農産物」をみんなで積極的に選んで食べることが、びわ湖をきれいにすることにつながるんだ、という意識を、みんなで共有することができました。

〔3〕「びわ湖淀川流域と市民のつながり」…びわ湖に来て魅力を感じてもらおう

下流域とのつながりを深めるには、まずは来てもらってびわ湖の魅力を体感してもらうことが何より重要、という結論に至りました。

来年リニューアルオープンする琵琶湖博物館にもっと県外からたくさん来てもらうことで、びわ湖の魅力を知るきっかけにしてもらいたい、といった意見も出ました。

〔4〕「びわ湖をめぐる地域での連携」…地域のなかで、ボランティア“起業”と“企業”内ボランティアの支えあい、学びあいを！

県内のボランティア・NPO 団体の中心的な担い手の高齢化が問題になっていることが分かりました。ボランティア団体が若い人材を獲得するには、それぞれの強みを活かして収益を得られる事業に取り組むこと（ボランティア起業）が必要な一方で、社会貢献をしたいと考えている企業内で、社員が積極的に環境活動・市民活動に取り組むような企業文化を育てていただく（企業内ボランティア）ことも大事、という話が出ました。学生の継続的・効果的な関わり方も含め、マザーレイクフォーラムとして、そういったことへのサポートやコーディネートをしていければ、と思います。

〔5〕「びわ湖と子ども」… ～湖魚食文化を守るため～ 食べておいしさを知ってもらう!!

「びわ湖の恵み」をみんなで出しあった結果、「水」「魚」「食べ物」「食文化」といったキーワードがたくさん出てきました。湖魚を食べる食文化がすたれてきた背景には、「びわ湖の魚が減った」ことと、「びわ湖の魚を食べる人が減った」ことの両方があると思うので、「魚を食べる人」を増やすため、「湖魚食サミット」を開催して、食べておいしさを知ってもらう取り組みをしたい、と考

えました。キャラクター（「ニゴロブナっし―」？）を作りたい、という意見も出ました。

〔6〕「びわ湖と川の生き物」…みんなの力でびわ湖と川、田んぼや山のいきものをつなげよう

オオサンショウウオが行き来できる川づくり、ビワマスが川の構造物を遡上できるようにしたい、田んぼと生き物をつなげたい、など、それぞれの仕事上の立場から、びわ湖・川・田んぼ・山と生き物をつなぐためのさまざまな課題や目標が挙げられました。

〔7〕「びわ湖と外来魚」…共有 ～みんなで考え みんなで実践～

びわ湖が今どうなっているのか、どのようなびわ湖をめざすのか、今何をすべきかについて、参加メンバーそれぞれに思いを語ってもらい、それを共有して、他のメンバーの考えも参考にしながらそれぞれの活動に活かしていく、ということに主眼を置いたので、あえて結論は出しませんでした。

子どもたちからは、外来魚だからといって命を粗末にしてはいけないから、外来魚もちゃんと食べるべき、といった意見も出ていました。

〔8〕「びわ湖と人のつながり」…魚つかみと魚食文化の復活　上流・下流の交流

このグループでは、生き物と人とのつながりをどうすれば取り戻せるかについて話し合いました。年配の方が多かったので、「昔はこんな魚をこうやって獲って食べた」といった話をたくさん聞くことができました。そういった魚つかみや湖魚食の楽しい・おいしい思い出を、今の子どもたちにも、上下流間の交流を深めながら体験してもらうことが大切ではないか、ということにまとまりました。

メンバー同士も、たまたま野洲川の上流・下流の住民同士３人で、これを機にまた再会して交流の続きをする約束を取り付けることができました。

〔9〕「びわ湖とデザイン」…ほっときゃ集まる！ 子どもから大人まで びわ湖から海外へ アナログからデジタルへ

びわっこパネルの利用対象をさらに広げてはどうか、という意見がたくさん出されました。例えば、イラスト等を追加して子ども向けの利用、専門性を持った大人同士による利用、英語バージョンも作って県外・海外からの観光客による利用、QR コードをつけてデジタルコンテンツに誘導する、など、びわっこパネルの可能性を広げるたくさんのアイディアをいただくことができました。

〔10・15〕「びわ湖三方よし×住まい」…住まいづくりは人を育て、森を育てる。そして時をつなぎ、人をつなげる。

現状、住まいづくりに必要な木材の多くが外国産や集成材で、長持ちせず、約 30 年で廃棄され、まったく循環型になっていません。地元の木を使って丈夫で長持ちする家を建て、壊す家の木も再利用できる、そういう循環型の暮らしを実践して子どもたちに見せることで、世代を越えてそういった心をつないでいくことができるのでは、と考えました。

〔11〕「びわ湖と健康」…日本一のびわ湖で楽しく運動をして、心と身体のバランスのとれた健康を手に入れよう！

まず、「健康」とは？という議論をしました。ひとつは「身体」。行きたい所へ行き、食べたいものを食べられる、自立した生活を送るための身体。そのため

には、いい水、いい食事、いい睡眠、いい運動が必要ですね、という話をしました。それから、もうひとつは、「心」の健康もありますね、という話が出ました。幸せを感じ、夢・目標・生きがいを感じていられることが大切だと思います。このような心と身体をバランス良く保つには、「環境」が大事ですね、という話になりました。そして、びわ湖の素晴らしい環境を健康に活かすには、車で移動するのではなく、びわ湖のほとりを「歩く」ことが有効、だから「びわ 100」に参加しましょう、という結論に至りました（笑）。

〔12〕「びわ湖流域と水害」…命を守るためまず知り、経験し、できることからする ～楽しみながら～

まずは水害のリスクを「知る」ことが第一歩。現在は守られすぎていて水害の経験がない人が多く、危機感を持ちにくいことが問題、ということから、普段の川を知り、日頃から川に親しむ経験してもらうことが重要、という話になりました。災害対策について難しく考えることはいきなりは難しいので、まずは楽しみながらできる範囲のことからはじめていきたいと思います。

具体策としては、水害や水害教育の専門知識を持ったリーダーを各地域に育てて、その人たちを中心に地域で取り組んでいただいたらいいのではないか、という意見も出ていました。

〔13〕「びわ湖と豊かな社会」…人と自然とのつながりを自慢できる暮らし

まず、「豊かさ」ってなんだろう？ということを改めて感じました。経済的な豊かさも必要だけれど、一方で、地域での人びとのつながりや、さまざまな形で身近な自然と関われる暮らしのなかに豊かさがあるのではないか、という話が出ました。

びわ湖の環境を良くするような産業が育ち、かつ、びわ湖周辺での地域活動などを通じて人と人、人と自然がしっかりつながっている地域社会こそ、自慢できる豊かな社会ではないかな、という話になりました。

〔14〕「びわ湖とメディア」…500 年後の琵琶湖のために、今の琵琶湖の役割をメディアで伝える

50 年前のびわ湖の環境を取り戻すには、その 10 倍の 500 年かかる、ということを知りました。そのような問題を、下流に住む人びとも含めて、皆さんに自分たちのこととして感じ取ってもらい、より深く関心をもってもらうために、メディアの力で広く分かりやすく伝えていきたいと思います。

また、しっかり記録に残す、アーカイブする、ということも、メディアの大切な役割です。

■総括 ～ 閉会

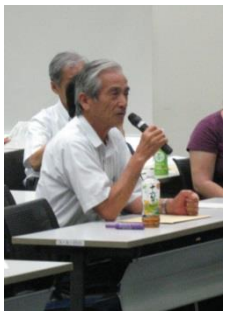
○ 井手慎司

昨年は、話し合いのグループの数が 9 つでしたが、1 つのグループの人数が多すぎて話し合いがしにくかったグループもあったことから、今年は、グループ数を一気に 15 に増やしてみました。それが結果的に良かったと感じられたかどうかは皆さん次第ですが、

少なくとも私が参加していたグループの感触としては、**7～8 人でゆったりしゃべることができて、とても良い雰囲気だった**ように感じました。

他のグループからも頻繁に笑い声が聞こえてきたりしていましたし、最後の各グループの発表内容からしても、**全体的に和気あいあいとした良い場になった**のでは、と思います。

○ 松沢松治



私は、普段は自分がびわ湖のことを皆さんに話すばかりのことが多いので、今日は皆さんの思いや意見をたくさん聞くことができて、とても新鮮に感じました。

これを機に、**びわ湖への関心・思いを深め**ていただいて、繰り返しになりますが、ここにいる全員が**いつもびわ湖のことを頭の片隅に置きながら生活をしていってほしい**な、と思います。

今日はありがとうございました。

最後に、いま一度、今日出てきた 14 の**「キーセンテンス」**を各グループ担当者が次々と高らかに読み上げ、これから 1 年間もそれぞれの**「私のコミットメント」**や**「キーセンテンス」**を胸に各々の活動をがんばることと、来年またこの場所で再会を果たすことをみんなで約束して、**「第 5 回マザーレイクフォーラムびわコミ会議」**が無事閉幕しました。

◇参　考

・「マザーレイクフォーラムびわコミ会議」Web サイト
http://mlf.shiga.jp/biwacomi

・「マザーレイクフォーラム」facebook ページ
https://www.facebook.com/motherlakeforum

・「琵琶湖と暮らし 2015　～指標でみる過去と現在～」ダウンロード
http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako/gakuzyutsuforum/files/shiryou2-1.pdf